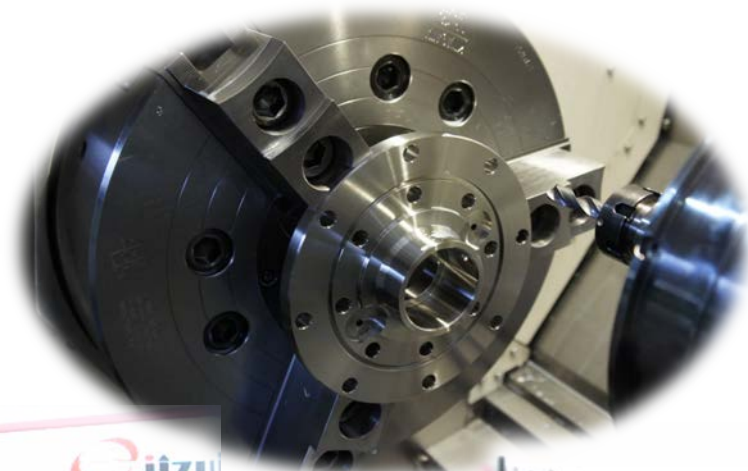


# 環境活動レポート

平成26年度

(実施期間:2014年5月~2015年4月)

2015年11月11日発行



株式会社飯塚鉄工所



エコアクション21  
認証・登録番号0001052

# 1. 環境方針

(株)飯塚鉄工所は以下の環境方針を定めています。

## 環境方針

### 基本理念

株式会社飯塚鉄工所は、金属部品加工製造業として自然との調和を意識し、環境問題を認識すると共に、環境経営システムを構築・運用し維持することにより継続的な改善に取り組む。

### 活動方針

1. 当社は環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守し、可能な範囲で環境保全に取り組む。
2. 資源・エネルギーの消費の適正化(二酸化炭素排出量削減)に努める。
  - ・電力消費量の削減
  - ・化石燃料の削減(灯油、ガソリン)
3. 廃棄物の削減と、資源としての再利用を進める。
  - ・一般及び産業廃棄物の分別の徹底
  - ・リサイクル率の向上
4. 水資源投入量の適正化に努める。
  - ・水使用量の削減
5. 環境に優しい物品への取替えを進める。(グリーン調達の実施)  
この環境方針達成のため、環境教育や必要な訓練により、全従業員に周知徹底を図る。

2014年5月1日

株式会社 飯塚鉄工所

代表取締役 飯塚肇

## 2. 組織(事業所)の概要

### ① 事業者名及び代表者名

株式会社 飯塚 鉄工 所  
代表取締役 飯塚 肇

ホームページ <http://www.e-iizuka.co.jp>

### ② 所在地

(本社及び工場) 〒945-0813  
新潟県柏崎市半田3丁目15番16号

(安田工場) 〒945-1355  
新潟県柏崎市安田3228番地1

(軽井川工場) 〒945-1356  
新潟県柏崎市軽井川931番42



### ③ 認証・登録範囲

軽井川工場は2016年度に拡大予定とし、その他組織・全活動を対象とする

### ④ 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 中村 秀一

E A 2 1 事務局  
連絡担当者

総務部 中町 亜希

TEL 0257-23-5611

FAX 0257-23-2813

### ⑤ 事業活動(対象範囲)及び活動の内容

**流体機器、真空機器、医療機器の金属部品加工製造業**

流体機器

：コントロールバルブ組立・部品加工

：ポンプ組立・部品加工

：一般特殊機械の部品加工及び制作

真空機器

：真空バルブ・部品加工

医療機器

### ⑥ 事業の規模

従業員数

94人 (2015年11月11日現在)

( 本社 49人 安田工場 26人 軽井川工場 19人)

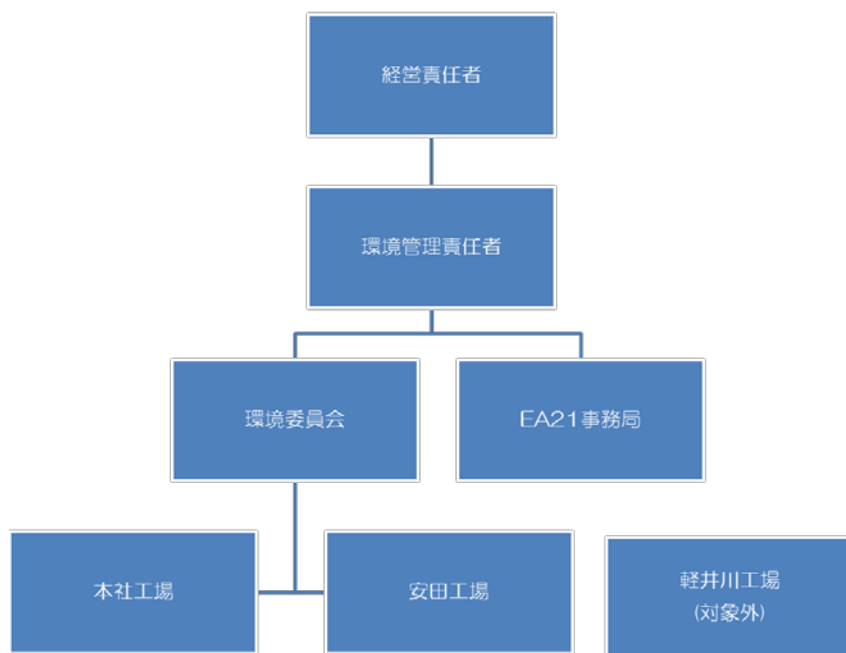
敷地面積

本 社 (延べ 1714.49㎡)

安田工場 (延べ 1586㎡)

軽井川工場 (延べ 1200㎡)

### 3. 環境組織図



各工場に1名 環境委員を置き、  
環境管理責任者を委員長とした「環境委員会」を設置し活動している。

### 4. 環境目標

環境目標	目標基準値(2013年度)	目標(3年間)	2014年度	2015年度	2016年度
CO2排出量の削減	55.86(t-CO2)	1%削減	0.5%削減	現状把握	2015年度実績を 基に設定
電気使用量の削減	831,819(kwh)	1%削減	0.5%削減		
化石燃料使用量の削減(ガス)	541.9(m3)	1%削減	0.5%削減		
化石燃料使用量の削減(燃料)	13596.1(ℓ)	1%削減	0.5%削減		
廃棄物の分別徹底	95%	95%	95%		
リサイクル率の向上	75%	60%	60%		
水使用量・排水量の削減	1161m <sup>3</sup>	95%	95%		
グリーン調達の実施	数値設定なし	59%	59%		
納期確保率の向上	数値設定なし	75%	75%		

目標数値設定・・・累計比で2013年度と比較しました。

## 5. 2014年度における環境目標とその実績（全社）

項 目	目標	実績	評価	項 目	目標	実績	評価
① CO2排出量の削減 (t-Co2)	550.91	627.29	未達成	⑥ リサイクル率の向上	75%	91%	達成
② 電気使用量の削減 (Kwh)	827660	890957	未達成	⑦ 水使用量・排水量の削減 (m3)	1155	1191	達成
③化石燃料使用量の削減 (ガス) (m3)	539.20	543.10	未達成	⑧ グリーン調達の実施	59%	56%	未達成
④化石燃料使用量の削減 (燃料) (ℓ)	13528.10	12022.60	達成	⑨ 化学物質の適正な管理	PRTR該当物質使用量ゼロの為数値設定なし		
⑤ 廃棄物の分別徹底	95%	100%	達成	⑩ 納期確保率の向上	現状把握		

### 5- (1) 目標設定値

①②③④⑦は対2013年度使用量0.5%減比、④⑤⑥⑧は目標値より。

### 5- (2) 各項目換算式。

①Co2排出量の削減目標値 (t-Co2) = 対2013年度比0.5%減(排出係数 0.600kg-CO2/kwh)

CO2排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は平成24年度の東北電力株式会社の実排出係数0.600kg-CO2/kWhを使用した。

②電気量削減目標値 (Kwh) = 2013年度累計使用量×0.995

③化石燃料削減(ガス)目標値 (m<sup>3</sup>) = 2013年度累計使用量×0.995

④化石燃料削減(燃料)目標値 (ℓ) = 2013年度累計使用量×0.995

⑤廃棄物の分別の徹底 (分別率算出 (%)) = (本社工場達成率+安田工場達成率) / 2  
(本社工場) 分別達成日数 / 稼働日数 × 100  
(安田工場) 廃棄量 / (廃棄量+分別不能量) × 100

⑥リサイクル率の向上 (リサイクル率算出 (%)) = A / (廃棄量+A) × 100  
「A=ダンボールストック量+パッキンストック量」

⑦水使用量・排水量の削減 (m<sup>3</sup>/h) = 2013年度累計使用量×0.995

⑧グリーン調達の実施 グリーン調達率 (%) = エコマーク商品 / 全購入品 × 100

### 2014年度の結果

今年度からの3ヶ年は、前年までの目標と少し変更して設定しました。

毎年設備が増加していることで、CO2排出に係る使用量が増加の一途です。

しかしながら、洗浄を必要とする製品がある程度安定していることや、従業員の節水意識の向上などにより、少しずつではありますが抑制できているところはあると感じています。

段ボールについては、社内に搬入された荷物の段ボールの梱包材としてのリサイクルはもちろんのこと、スーパーや協力会社様からの廃棄されるものをリサイクルして出荷作業をしています。

納期確保率は、材料入荷や加工の遅延、作業員の力量など色々な要因があり、すぐに改善の糸口が分かるものではありませんが、効率の良い作業で環境目標に掲げているものも改善されることから引き続き監視していきたいと思えます。

## 6. 環境活動計画の内容

目標項目	内 容	2014年度の実績結果	2015年度の実績内容
① 廃棄物の分別徹底	• 種別ごとにBOXを設置する。	廃棄物の分別を徹底できた	継続して行う。
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	定着している。	
	• 設置場所を確保する。	確保できている。	
	• 分別種別表の掲示及び環境管理責任者によるチェック・評価。	徹底できた。	
② リサイクル率の向上	• 種別ごとにBOXを設置する。	良い状態を保っている。	継続して行う
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	定着している。	
	• ダンボール・パッキン材は再利用不可と判断されたときに廃棄し、それ以外は出荷用としての再利用・製品の下敷など社内間での再利用に努める。	積極的に再利用に努めた	
	• 両面使用済コピー用紙や油が染みて再利用不可の物以外の梱包使用済みの新聞紙・広告は、シュレッダーにかけ、梱包資材として再利用する。	緩衝材として有効利用するよう心掛けた	
③ 電気使用量の削減	• 未使用時の積極的な電源OFFに努める。 昼休み時・終業時は必ず行い、機械未稼働時にも必要であれば電源OFF。 パソコン等OA機器も同様。	推奨できている。	継続して行う
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	定着している。	
④ 化石燃料使用量の削減 (ガス)	• 未使用時の消火の徹底。	徹底できた。	継続して行う
	• 未使用時・終業時のガス栓閉の徹底。	点検項目に入れ確認した	継続して行う
	• 給湯器の無駄な使用を抑えるよう心がける。	周知徹底を心掛けた	呼びかけを行い徹底を図る
⑤ 化石燃料使用量の削減 (燃料)	• 社用車を使用する際には「社用車点検日報」記入し使用状況を確認する。	使用者は必ず記入し適切に管理した	工場増設により使用頻度は増えるが、なるべく使用量を減らすように努力する。
	• 本社⇄安田工場を行き来する用件をなるべくまとめて回数削減。	緊急時を除き設定した	
	• 部門比較は灯油使用時【冬季のみ】とする。	冬季の灯油仕様も極力抑えた	
⑥ 水使用量・排水量の削減	• 使用量を測定する。	検針票により確認できている。	継続して行う
	• 節水管理の徹底をする。	周知徹底を心掛けた	
	• 各部門の環境当番が確認し、日報に記録する。	徹底できた	
⑦ グリーン調達の実施	• エコマーク商品の購入時の選定	購入時、エコマーク商品を選ぶよう周知徹底を心掛けた	カタログ等表記のあるものを参照に展開していく。
内部コミュニケーション	• 全社員該当のキリコ周り清掃当番の実施。	定着している。	継続して行う。
	• 始業前点検・月一回メンテナンス日の設定・実施。	定着している。	





## 7. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

### ① 法規制遵守状況の適合性評価・遵守状況

- (1) 騒音規制法・・・指定地域外の為非該当。自主規制値で遵守する。
- (2) 振動規制法・・・指定地域外の為非該当。自主規制値で遵守する。  
※ (1)(2)については2006年に柏崎市に依頼し測定済。いずれも自主規制値以下であった。
- (3) 下水道法・・・特定施設対象外であるが、下水道受入基準を遵守する。
- (4) 水質汚濁防止法・・・特定施設非該当。  
※ (3)(4)については2006年に上越環境科学センターに依頼し水質調査済。法定値以下であった。
- (5) 浄化槽法・・・保守点検・清掃（業者委託）
- (6) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律・・・マニュアルを活用。適正処理実施。
- (7) 容器リサイクル法・・・廃棄物の減量・適正処理及び有効活用。
- (8) 家電リサイクル法（廃棄時）・・・適正処理。
- (9) 自動車リサイクル法・・・引取業者への適正な引渡し。
- (10) グリーン購入法・・・環境への負荷の低減に資する製品購入割合促進。
- (11) 消防法・・・灯油について「柏崎市火災予防条例第46条」に基づき届出をした。
- (12) 高圧ガス保安法・・・指定数量以下なので届出不要。但し規制は遵守。
- (13) 環境条例・・・遵守している。
- (14) 労働安全衛生法・・・労働者の安全と健康の確保に努めている。

### ② 違反・訴訟等

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

## 8. 2014年度の活動に対する代表者による評価・見直しの結果

現状はエコアクション21の維持・継続を行う。

また、基本理念や活動方針は今後見直しの機会を設けるかもしれないが、現状維持で行う。

環境目標についても、無理のない形で継続すること。

## 9. 2015年度の全社重点目標

2015年度は組織変更を伴う設備移動や導入が各工場ですべて予定があります。

いままでの状況と異なることから様々な部分で変動が出てくると思います。

監視測定し、現状に見合う目標にするため、今年度は「現状把握」の期間を設けます。

また、従来通り「工場内をクリーンに」を継続しつつ、管理体制も強化していきたいと思っております。

「目で見える管理」を行いつつ、社員の意識向上や提案意欲を高めていきたいと思っております。

また、電気料金含む様々な箇所での値上げ等コスト面でもだんだんと厳しい状況化が増えていきます。節電・節水、その他節約できるものはよく考えて使用するなどより一層の従業員の意識の向上や改善提案などをもとめながら、各工場の特色も生かしつつ、更なる「無駄のない生産体制」を構築し、コストにも環境にも優しい企業体制で活動していきます。